

土木構造物荷重指針連合小委員会 第15回 議事録

○日 時：2005年10月28日（金）14：00～17：00

○場 所：中央大学理工学部2号館4F 2437号室（土木会議室）

○出席者：古田委員長、本城副委員長、佐藤幹事長、梶田委員、北原幹事、金委員、篠田委員、鈴木幹事、中山委員、戸田幹事

○議事： 1) 前回議事録確認

2) 発題と討議

- ・委員会活動に関するお知らせ
- ・第 編 各種作用（降雨作用） についての討議

○配布資料： 15-1) 第14回 議事録(案)

15-2) 出版企画書

15-3) 確率降水量マップの作成

15-4) 土木学会誌記事（構造工学委員会の紹介）

○討議に先立って（委員の加入）

- ・ 篠田委員（複合技術研究所）の加入が紹介された。

○主な討議（発言者、敬称略）

1. 前回議事録の確認

- ・ 佐藤幹事長により前回議事録の確認がなされた。
- ・ 風作用については、建築学会荷重指針、ISO/TC98と整合性を取りつつも、できれば性能設計を念頭においた本作用指針として統一した書きぶりにしたい。
査読を川谷委員他に依頼し、全体構成等を調整する。
- ・ 雪作用については、原稿案を作成した上で、千葉大学・高橋先生に査読をお願いする。
- ・ 走行作用（活荷重）については、11月から原稿作成作業を本格化させる。（金）
- ・ 地盤作用のうち、地盤反力係数に関する資料を本城副委員長より鈴木幹事に提供する。

2. 出版企画書の確認

- ・ 佐藤幹事長で作成した資料15-2 出版企画書の内容確認を行った（土木構造物の性能設計における作用・環境的影響指針（第1版）(仮)）。
- ・ 原稿提出予定日等の期日を確認の上、今後の作業を鋭意進める。

3. 第 編 各種作用 についての討議

降雨作用 について

- ・ 篠田委員より資料 15-3 について説明がなされた。本資料は、観測データから土構造物に対する降雨作用を設計に取り入れる際に必要となる確率降水量マップを作成したものである。
- ・ 他作用と同様に、現象、作用因子、作用（モデル）、作用効果の分類が必要。（佐藤）
- ・ 降雨作用を設計で取り扱う場合、例えば FEM 解析（浸透流解析）を実施する場合の降雨強度を決めるのに作用因子（日最大降雨量、時間最大降雨量等）の使い分けができる。ただし、さらに降雨パターンを規定する必要がある。（篠田）
- ・ 斜面崩壊の観点からは、降雨の累積量や連続雨量についても議論される。（中山）
- ・ 降雨による道路の通行規制を判断する場合にも利用が考えられる。（本城）
- ・ 地震作用原稿案等を参考に作用指針の思想に従った前書きを作成する。他作用と違い荷重的なイメージがないので、斜面を含む土構造物に対して降雨がどのように作用するのかわかりやすく記述してもらいたい。（古田）

4. その他

- ・ 荷重指針委員会の今後の活動について（資料 15-4）

次回開催予定

第 16 回本委員会 12月26日（月）14：00～17：00 土木学会

以上